

軽米町百人委員会平成 28 年度第 3 回高齢者いきいき部会議事録

○開催日時：平成 28 年 11 月 4 日（金）午後 2 時～午後 3 時 40 分

○開催場所：軽米町役場庁舎 3 階会議室

○出席者

委員：18 人中 12 人席（田頭トヨ子、福田實、中舘ミヤ、浅水かつ子、菅原皓文、工藤敏直、千葉エイ子、田中ヌエ子、板橋義男、野中元榮、宮川榮吉、君成田美代子）

事務局：町民生活課 中野 福田 健康福祉課 於本
総務課 日山 小笠原 下谷地

○開会

（町民生活課長）ただ今から平成 28 年度軽米町百人委員会第 3 回高齢者いきいき部会を開催いたします。なお、部会として集まっていたのは今年度は今回が最後となります。本日は、前回の内容確認と町長への提言が議事となりますのでよろしくお願いします。議事に入る前に部会長からご挨拶をいただきたいと思ひます。

○部会長あいさつ

（部会長）皆さん寒いなかお集まりいただきご苦労様でございます。いま課長からお話がありましたとおり、今日の議題は前回の確認と町長への提言ということです。事務局の方からもまとめていただいた資料を準備してもらいましたし、私自身もこの会を最後どのように持っていったらいいのか悩んでですね、今日の午前中少し、私なりの概要というものを書いてみましたので持ってきました。これは私の、こういう流れで話が進んできたからこういう形で持っていけばよいのかなという材料にしたいと思ひています。それでは、さっそくですが少しご説明いただければと思ひますのでよろしくお願いします。

○議事

（事務局）はい、それでは簡単にですけれども「第 2 回部会の内容確認について」ということでまとめましたので、参考にしていただければと思ひます。上から順にみていきますと、よく皆さんリーダーの育成ということをおっしゃられておりますので、リーダー養成研修会とかそういったことが考えられるのかなと思ひます。また、伝承活動の大切さなども出されましたの

で、各種教室の開催などが考えられるのかなと。また、自分たちで企画したいという話も前回ございましたので、そうすると実行委員会の形になるのかな。それから集いの場所の確保というところだと、例えばどこかの空き家の借上げだとか、その場合はその借り上げ料などが発生しますよね。そういったことでこれらが会議の参考になればと思います、よろしく願いします。

(部会長) ありがとうございます。このように前回いろんなことが出されたわけですが、よくまとめていただいて、これを今後どのように持っていけばよいかという時の参考にしていただければと思います。それからもう一つ、私の方から出したものをご覧いただきたいと思います。こちらのように具体的には書いていません。ただ私は、参考にしていただきたいためにですね、3つ書いています。分野ごとの隠れた名人を探す、分野ごとに活動できる場所の提供、各分野のリーダーの発掘と研修会の開催、こう書きましたのは、高齢者の中からいかにリーダーを発掘するか、どんなリーダーが求められるかということが話し合われたわけです。その中で、私たち高齢者がいきいきと生活できる場所を探していければいいのじゃないかという話、そして高齢者には高齢者の役割があるはずなんだ、その役割を担ってですね、その地域にある歴史や文化を継承していく役割が我々にはあるんじゃないかと、そして私が考えたのは高齢者が得意とする活動をピックアップしていきませんかということ、そして例として書いたのが昔話やわら細工、郷土料理の名人だっているでしょう、いわゆる一つの道に長けている人、得意分野を持っている人をリーダーと考えて、グループごとにこの指とまれで集まってきて活動していけばリーダーの育成になるのかなと。この他に皆さまからこういうのもあったとかこれは違うんじゃないかとかそういうのがあれば出していただきたいと思います。過去のこと、確認はこれくらいにして、これからのこと次のことを考えましょう。今後どうしたらいいかという提言の部分についていかがでしょうか。先ほどの内容で不足などがあればお願いしたいのですが。前回の会議の中で、課長さんがだいたい意見が出たら事務局の方でそれをまとめて部会長、副部会長にそれを示して、そうして最終的な決定をしますよというのがあったんですよね。そうすると後は、どういったことを提言していけばいいのかなということになるわけですが、リーダーを育成するということについては、それほど大きいものということではなく、隠れた名人さがしとかそういうところから始められると思うんですよね。小さなグループの中でですね、一つの技術に秀でた人とかそういった人たちを中心にこの指とまれと言えあればですけど、そういった人たちが集まれる場所づくり、そして我々高齢者

が生き生きとしていく、こういったことができたらいいですよね。勝手に一人でしゃべっていて申し訳ないですが、もう一つ。かるまい特産のシリアル、雑穀ですね、これと関連した高齢者の活動グループというのが、この間町でシリアルのサミットやりましたよね、そういうことに関連付けたなにかというのを考えたほうがいいのではないかと、というのをこの部会の方から直接言われましたし、そういったことを考えていただければと思います。この1～3までの考え方はどうでしょうか？そしてこちらは11までまとめてくださいました。このあたりはどうでしょう。

(委員1) この中のグループで集まってというのは、この指とまれで集まって言いだしっぺがリーダーを務めるってこと？

(部会長) 私がイメージしていたのは、どこの地域にもこれが上手いとか長けた人というのはいますよね？そういう人たちを私たちが探せるかはわからないけれども、みんなで選ぶことで、選ばれた人たちは必要とされていると実感できる。その人たちに小グループのリーダーとして活動してもらい、その人たちの中で研修会なんかを開いていければいいのかなと。わら細工、竹細工、昔話であったりとか分野はそれぞれ違っても活動を進めていくという意味での研修であれば共通するのかなと思います。

(委員1) 例えば、わら細工に長けた人が必ずしも伝承や指導に長けているとは限らないのだから、先にリーダーとして研修を受けた人をその人のもとに送り込んでやるのとどっちがいいのかなと考えた。

(部会長) その具体的な方法までは現段階で私も考えていないけども、まずはグループを作って集まるのが大事で、いきなり研修ではないのかなと考えます。

(委員2) いま聞いていると、やはりなかなか難しい話だと思います。この部会が目指すのは高齢者がいきいきするために、やはり一番は地域でどのように集まるかだと思います。今まで出ていない人に出てもらうためにはどうしたらいいかということ。

(部会長) 全くその通りだと思います。部落でもいいし、全体でもいいし、みんなが参加できるようにちょっと声かけを頑張れる、そういう人がリーダーだと思っんですよ。

(委員2) 今の話だとリーダーが何かをしなきゃいけないように思ったが。

(委員1) そうではなく、うまく回るように助けるという意味じゃないかな。

(部会長) 今回私がこうやって提示したのはですね、前回までの話し合いの中でかなり具体化されてきたわけです。それを受けて、提言とするならこの3つかなということでもまとめてみたんです。それをすべて私が決めるではもちろんなく、みんなで話をしながら、どういう方向にもっていけばいい

のかというところを今日決められればいいのかなど思ったわけです。ようするに話の柱ですよ。なので、それぞれの部落で活動できればそれはそれでいいわけです。最終的には我々高齢者が生き生きと楽しく活動できる、そういうことをやっていくのが私たちの部会のねらいだと思います。

(委員3) 私たちの会合があつて、その中に百人委員会の人でも2、3人いましたので、これまでのことをまとめてみませんか？ やって見たんです。そしたら、いま部会長さんが言った①から③と同じようなことが出たんです。で、それを文書で残すのか、行動で残すのか2種類あると思います。

(部会長) そうでしたか、ありがとうございます。これまでの話をまとめると、こういった形になるのかなと思ってですね。これに関して皆さん何かありませんか？

(委員2) 会長さんが言ったことはその通りだと思います。うちの地区でもみんな集まって体を動かしたり、一緒に食事をしたりとやっています。

(部会長) いまお話しいただいたのは、各地区でやっている共食事業のことでしょ。たぶん、皆さんの地区でもやっているところも多いんじゃないですか。もちろん共食事業もこの中の一つだと思いますし、それ以外にもですね、もっといろいろと活動できればいいのかなと思うわけなんですけれども。

(委員4) いま共食事業という話が出まして、私は前に共食事業に携わらせていただいたんですけれども、この間参加した人から、軽い運動と食事、もちろんそれもいいんですけども、私たちももう少し体も動かせるし頭も使いたい。自分たちもものを教えたり一緒に作って食べたいと言っていた。椅子に座って動いたり折り紙とか、それもいいんですけど、何かもっと動きたいけど何かないかなと聞かれて、やはりみんな何かキラッと輝くのが欲しいんだと思う。そのキラッとしたのが何かは具体的には分からないんですけど。

(部会長) 今の話は、受け身ではなくて自分たちで活動したいという話だと思う。そう思った時に活動する場所がなければそれが不満にもなってくると思う。それを引き出す方法を、共食事業ももちろんだけど、それ以外の方法を見つけていくのがこの会のあり方かなと思います。

(委員5) 何の教室をやるにも先生は必要だし、料理にしたって作って食べるからいきいきするけども、ごちそうになるばかりだと遠慮とかそういうのも出てくると思う。玉入れとか綱引きみたいなスポーツだとみんなできるけど、わら細工や料理なんかは先生に教わりながら自分たちでやって覚えることでいきいきしてくるのかなと思います。いきいき部会の中でリーダーの育成と言っても、今更リーダーでもないしな、と考える。それよりは

部会の中から3, 4人で今回はあれをしましょうとか話し合っただけで決めたほうがいいのではないかなと思います。

(部会長) そうすると、この中から企画するメンバーを決めると、そういうことですか？ そうするとすごく責任重大ですよ、しかも継続的にやっていたらいいかな。

(委員5) 役場の方では、塩分の少ないみそ汁やおかずをつくって食べるからお米だけ持ってきてくださいというのをやっている。そういったのをこの部会でもできたらいいのかなと思いました。

(部会長) 皆さん今のご意見についてはいかがですか？

(委員1) 得意な人が公募でも何でもいいから手を挙げて、教室とかじゃなくサークルみたいなものを作って、その中からリーダーみたいなものが自然的に生まれてくればそれが一番いいと思う。生まれない時には各部会からピックアップして研修を受けてもらうのがいいんじゃないか。

(部会長) 今の意見もそうだけでも、この部会でめざすのはあくまで同好会的な集まりではないか。それに、正直なところ私たちくらいの年齢になると、ある程度興味のあることじゃないと取り組まないですよ。そうすると動員されたところで動かないですよ、みんなもう自立しているんだから。好きなことしか動かない人たちに自主的に参加してもらうそんな活動が必要ですよ。そしてその中からグループのリーダー的な人が出て行って、それが継続されて、そしてそれが若い人たちにも継承されていけばいいな、そのための方法を考えていくのがこの部会の役割かなと思うんですけどもね。

(副部会長) 先ほども話が出たんですけども、生き生きしている人は何にでも参加しますよね、実際それが根本にあると思うんです。やっぱり一人で孤独を感じている方々をどうやって引っ張り出そうかなというのも根本にあると思うんです。その人たちが一人じゃないと感じることが、みんな生き生きしているということだと思います。いま、いろんな提案がなされてきましたけども、一人一芸じゃないですが、一人一教室のように様々な教室を提示して、全員がいずれかには入る、そんな形が出来たらいいなと思います。そうすると、さっき部会長も言っていましたけど、好きなことは継続できるし、なるべく多くの高齢者の方が興味を持ってくれるような教室があればいいなと思いました。

(委員4) 寿大学に入っているんですが、滝沢村に研修に行ったときに、ここと同じようにたくさん部会があったんだけど、講師は役場の方でつけて来て、生涯学習だったり健康づくりだったり、様々な課で取り組んでいたように思う。

(部会長) 寿大学や老人クラブと連携するというのがいいと思いますし、それぞれは独立していて私たちもまたそれらに入っていない人たちをどうするかという考えにもなりますかね。

(委員3) やはり、こういうのはアンケートや希望を取って、各地区に入り込んで活動するのが一番いいと思う。

(部会長) 各地区に入っていくのは基本ですよ、この間の話し合いでも出ていたと思います。

(委員3) 調べてみると、軽米病院の先生たちが頑張ってるから、医療費などもかなり抑えられているようだ。介護サービスでは、玄関から玄関まで送迎があるから結構利用されているようだし、はつらつ教室なども活発に行われている。郷土食の中でも、季節や節句で食べる料理などは本当に残していきたい。

(委員5) たくさんいろいろ出たけど、部会長さんが書いてきてくれたのでいいんじゃないですか？

(委員1) でも、もう少し具体化しないと。

(委員6) せっかくこうやって部会長さんも役場の方でもまとめてくれたんだから、この中から1つ2つやってみましょうということではどうでしょう。軽米だって広いんだから、みんないっぺんにということじゃなく、どこかの地区で始めてみては。

(部会長) どうですか、この11項目の中でこれに取り組みましょうというのがあれば。前は昔話やわら細工、郷土料理なんかが出たと思うんですよね。

(委員1) 教室と言えばちょっと硬くなるので、同好会。を、いずれ作っていくときの話です。お知らせ版に載せるとか、この部会でチラシを作って全世帯に配るとか、が必要だと思います。そして、会員一人につき200円だとか300円だとか補助しますとかなんとかかして、来年度の予算を取るときには10団体分くらいの予算を取っておくとかいう具体的な感じでもっていってもらいたい。

(委員4) 前回のまとめの中に、研修を企画するグループというのがあるんですけど、これがやはり必要なんじゃないかなと考えました。そこでさらに具体的にまとめてから取り組んではどうかなと思ったんですが。

(委員1) 私、それも考えたんですけどね。それでもまずは予算を確保していかないと進まないと思って動いてしまった方がいいかなと。仮にこの中で企画するにしても、どういったのが考えられるか決めかねるんじゃないかな。

(委員7) 私は町に来て4年ちょっとくらいになるんですが、卓球をしたくてそういったサークル的なものはないかと町の体育館に行ったら無いです。

らしくて、それで知り合いなんかにも声をかけたけれども、まだ一人も見つからない。だから、こういうのやりたい、誰かやろうよという形で始めたいというのは理想的だけれども、現実としては4年間で1人もいないという状況だ。だから、さっき出たように何人かで先に内容や講師を決めてから広報などでお知らせするのがいいんじゃないですか。現在の状況だと、なにかをしたいと思った時に、どこに問い合わせる誰に聞けばいいのかわからないと思う。

(部会長) では、誰がその内容や講師を決めるのでしょうか。これまでの話し合いの中で、数人で集まってサークル的なものを始めながらその中からリーダーを探していこうよという形でまとまるかなと思ったんですが。

(委員5) 難しいですね。まずは行動に移さなきゃ、と言っても誰が行動に移すのか。

(委員1) 卓球や野球なんかのスポーツはまだある程度の人数がいるからいい。そうじゃなく、キラッと光る地域の宝をどうするか。そういう高齢者は結構いるはずなんだよ、ただ日の目が当たってない。

(委員5) すぐ行動に移すためにはそれぞれの地区でこういうことをやるから集まってちょうだいと地区の人に呼びかけてやったらいいんじゃないの。

(委員1) 各地区でやるの？町でやるというのでなくて？

(委員5) いきなり中央に集まってというのは難しいんじゃないですか？

(部会長) あのですね、今回である程度形にして町長へ提言を行って、それで町で取り組むとなったらまた新しい委員の皆さんで具体的に進めていくという流れですので、この中から3つか4つ、具体化していけるものがあればいいのではないかと。ですので、伝承活動とかそういったところ、またその活動の場所などについても町長さんの方にお問い合わせしたいと、そういったあたりでどうかなと思うんですけどもね。

(委員5) 隠れた名人さがしというのはどういった方法があると思いますか？

(部会長) 私のイメージだと、自分たちで一からというのができるかはわかりませんが、昔はなんとかの名人というのがあったんですよね。だいぶ前なので亡くなっている人もいるかもしれないので、新しく探してみようということです。紹介するにはもちろん本人たちの承諾を得ないといけませんけどね。そして、例えば昔話ならこの人だという人のところに昔話に興味を持った人たちが集まって、最初は聞くだけでもいいと思うんです。そして、伝承ということであればそれを文字に起こすとかね。そういったことで集まればいいのかと思うんですけども。

(委員5) あまりたくさんあってもあれだから、最初は5つくらいから慣れてきたらだんだんに増やしていくという形でどうですかね。

(委員1) 最初は3人や5人でもいいと思うよ。動き出して、よさそうだなと思えば人は増えていく。

(健康福祉課長) 先ほど共食事業の話が出ましたけれども、今年度実施地区が増えまして今後さらに増やしていくために郷土芸能や郷土料理の活用、などを考えています。健康増進などを目的に、より多くの方にご参加いただきたいんですけども、その会場までの足、交通手段がないという課題もあります。今後担当と相談しながら何とかしていきたいと思います。

(部会長) 今のは、共食事業と郷土料理のタイアップのような話ですかね。そうすると講師もそれなりに必要になってきます。下新町だと4,50人は集まってくるから、材料は前の日から準備したりとか結構な時間がかかってきますよね。そういった準備からお手伝いしたりとかでだんだんに集まっていてもいいだろうし。なわないともただ編んだって仕方ないんだから、わら細工とかそういった形でね。あとは昔話で3つ。スポーツもある程度年齢がいったらできるものといったらどんなのがあるでしょうね。たくさんいなきゃできないというのは結構難しいですよ。個人でもできるものだと楽しめるのかなと思いますけれども。

(委員7) もちろんここでのスポーツというのは勝ち負けにこだわるものでなく、健康増進や楽しむことが目的になるわけだから、軽く汗を流せるようなもので良いわけですよ。

(総務課長) 町には体育協会があつて、各競技ごとの単位協会もあるわけですが、そちらはやはり競技スポーツとしての活動が主になり、初心者の方や高齢の方がそのスポーツに興味を持っても、なかなかとつきにくいというか、そもそもどこに聞いたらいいのかわからないというのはその通りだと思います。ゲートボールなどはチーム競技なのでどこかに入らないと始められないです。分野は教育委員会になるかもしれませんが、そういった高齢者でも気軽に始められるスポーツの体制づくりという提言も面白いのかなと思います。

(部会長) 種目は限定せずにですね？高齢者が体を動かせるように汗を流せるようなスポーツと活動できる場所の提供ということで。では、そういうことで現在4つですけども。このあたりでいかがでしょうか。私たち高齢者が、いきいきと楽しく生活するためのはげみの場をセットしてほしいというのを町長さんどうか、という形の提言になるかと思いますが。よろしいでしょうか。よろしいようですので、以上にしたいと思います。具体的には来年度からということになりますけれども、まず提言をして予算がついてからということにはなりますが。それでは以上で本日の任を下ろさせていただきます。ありがとうございました。